【事業名】那須どうぶつ王国・ライチョウ野生復帰事業
【団体名】那須高原リゾート開発株式会社（那須どうぶつ王国）

令和５年度　生物多様性保全推進支援事業
実績報告書別紙10－６

## 事業の背景・目的

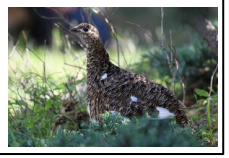
平成30年に中央アルプスで50年ぶりにライチョウのメス1羽が確認されたことを受け、環境省の「第二期ライチョウ保護増殖事業実施計画」で中央アルプスにおける個体群復活事業が開始された。域内保全と同時に、動物園からの野生復帰事業が重要な課題として定められた。那須どうぶつ王国は令和3年度に中央アルプスから野生個体を受け入れ、令和4年8月に計19羽（親3羽、雛16羽）を野生復帰に供した。令和5年度以降は野生および保険個体の飼育繁殖に取り組み、次年度以降の野生復帰予備群を供出する。また、ライチョウの餌資源となる高山植物の栽培に取り組み、特異的な腸内細菌叢の維持に取り組む。

## 事業の内容

野生および保険個体の飼育下繁殖に取り組み、生息地で生存し得る能力を身に付けるための前期野生順化を施したうえで野生復帰（放鳥）し、中央アルプスにおけるライチョウ個体群復活を目指す。

**令和４～６年度**

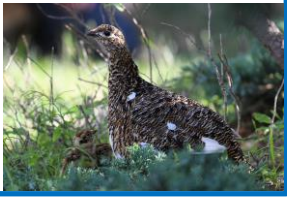
事業①　飼育下繁殖事業
- 野生および保険個体の繁殖に取り組む。
- 孵化後は前期野生順化を施し、一部を中央アルプスに放鳥することで中央アルプスにおける個体群復活に貢献する。
- 行動学的調査、生態学的調査を行い科学的知見の集積に努める。



事業②　餌資源確保事業
- ライチョウ特有の腸内細菌叢を維持するために、主要な餌資源である高山植物の栽培に取り組み、安定的に高山植物を供給できるよう努める。

**令和５～６年度**

事業③　遺伝的多様性維持事業
- 野生個体の遺伝子を持つ個体を保険集団に合流させ、一方、保険個体の遺伝子を持つ個体を中央アルプスに放鳥することで双方の遺伝的多様性の維持に努める。

## 得られた成果

令和5年度の環境省の報告では、令和4年8月に当園から中央アルプスへの野生復帰に供した19羽のうち、少なくとも7羽の生存が確認され、うち5羽が繁殖に寄与していることが確認された。そのうちの一部の個体については保険個体の遺伝子を持っているため、昨年度の事業が中央アルプスにおける遺伝的多様性の維持に貢献していると言える。一方、中央アルプスから導入したメス個体については今年の繁殖期に死亡したため、この遺伝子を残すことができなかった。もう1羽のオスは保険個体のメスとつがいになり、自然繁殖で雛3羽が成育した。このオスについては、次年度以降の野生復帰に向けた移送手法確立のため9月に陸送を用いて中央アルプスに輸送した。雛3羽には自園での栽培や植物園から供給された高山植物を与えることで、野生個体と同等の腸内細菌叢を維持することができた。